

別記様式（第4条関係）

会 議 録

会議の名称	第11回宍粟市地域創生戦略委員会	
開催日時	平成30年9月10日（月）14時00分～16時15分	
開催場所	宍粟市役所本庁舎 3階 庁議室	
議長（委員長・会長） 氏 名	林 昌彦	
委員 氏 名	（出席者） 林 昌彦、三渡 圭介、岡本 一也、 長田 博、春名 千代、山田 寛、 種谷 淳	（欠席者） 玉田 恵美、田口 すみ子、 古根川 淳也
事務局及び担当部 氏 名	宍粟市 （事務局・担当部） 企画総務部：坂根部長、水口次長 地域創生課：西嶋課長、藤原副課長、前田係長、朱山主査	
傍聴人数	2名	
会議の公開・非公開の 区分及び非公開の 理由	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	（非公開の理由）
決定事項	（議題及び決定事項） 1 開会 2 あいさつ 3 報告・協議事項 （1）戦略事業の進捗について （2）若者による未来の地域づくりについて （3）人材確保・定住推進基金の活用について 4 その他 5 閉会	
会議経過	別紙のとおり	
会議資料等	別紙のとおり	
議事録の確認 （記名押印）	（委員長等） _____ ㊟	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
事務局	1 開会
委員長	2 あいさつ
	<p>皆さま、本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。前回の会議以降、宍粟市において自然の猛威により大変な被害が出ております。今回の災害で、地域全体の活力維持が防災に対する力になり、生活の維持再建に繋がっていくことを改めて感じたところです。</p> <p>昨日も警報が出て、今日未明まで避難されていた方がおられると聞いております。また、職員の方も朝方まで対応されていてお疲れのところだと思いますが、よろしくお願いします。</p>
事務局	3 報告・協議事項
	(1) 戦略事業の進捗について
事務局	【資料1-1】【資料1-2】について説明
委員長	まず、本日1点目は現状把握ということで、戦略事業の進捗状況についてKPIの数値により説明いただきました。全体を見まして、短期間に急激な変化は現れてきておらず、取組の方向性は好循環を生み出そうというものですが、なかなか進まないというのが現状かと思えます。そういった中で、改善をして進めようとしている取組を中心に説明いただきました。
	これから取組の改善ということがさらに必要になってきますので、今の説明で何かご意見やご質問がありましたらお願いします。
委員	資料の中に従業者数の数値が出てきていますが、こんなにも減少しているのですか。
事務局	用いています統計データの数値が経済センサスと工業統計ということで、両方で数値の取り方に違いがあることも一因だと考えています。ただ、数値が減少した理由はそういった要因だけではなく、実際に減少傾向にあると考えており、今後、どういった業種が減少しているのかなど個別に分析していくことが必要だと思っています。
委員	工業統計については、調査基準日が12月から6月に変更になったことで、夏場に従業員数が減少する素麺業などは調査対象の事業者から除外されてしまったことも減少している一つの要因だと思います。

委員	<p>進捗状況が「C」や「D」のような取組があまり進んでいない項目を「A」や「B」のように進んだ取組としていくために何を取り組んでいくのかが重要だと思います。資料では、その部分で何を取り組んでいくのかが分からないのですが、行政でどのように取り組んでいこうとされているのですか。特に結果が「0」という全く数値的に進展がない項目について、今後は何か取組をしていかなければいけないという認識なのか行政側の考えを教えてください。</p>
事務局	<p>数値上「0」となっている項目としましては、「移住・定住の住宅地支援」と「ひょうご仕事と生活の調和推進企業認定数」があります。</p> <p>「移住・定住の住宅地支援」につきましては、千種町の宝谷分譲地の契約成立件数をK P Iに設定しています。子育て世代への支援制度もありますが立地の問題もあり、契約が進んでいない状況です。また、既に購入されている土地もあり、そういった中で要件を緩和することは先に購入された方の不利益になるため、なかなか取組が進められていない状況です。</p> <p>ただ、人口減少が進む中、思い切った緩和も検討していかなければいけない状況であることは認識しており、今後は、先に購入されている方とも協議しながら要件の緩和も検討していきたいと考えています。</p> <p>「ひょうご仕事と生活の調和推進企業認定数」につきましては、認定企業の前段となる宣言企業は市内で5企業あり、また、市内に本社はないが、支社が市内にある企業で、認定企業となっている企業もあります。今後、認定企業の増加に向けては、商工会等とも連携する中で進めていきたいと考えていますが、現在K P Iに設定しています「ひょうご仕事と生活の調和推進企業認定数」が、ワークライフバランスの状況を見るうえで適したK P Iかどうかについては、実態に即して検討していく必要があると考えています。</p> <p>他に進捗状況が「C」や「D」の取組で、仕事に関連する取組につきましては、本年から開始しました「総合的な仕事の相談窓口（宍粟わくわくステーション）」で、企業と求職者のマッチングを進めていく中で、改善に向けて取組を進めていきたいと考えています。それ以外の取組につきましても結果は出ていませんが、これから取組を進めていかなければいけない段階にあると考えています。今後につきまして、特に仕事という部分が重要だと考えていますので、力を入れて進めていきます。</p>
委員	<p>ひょうご仕事と生活の調和推進につきまして、補足させていただきます。この取組を推進するひょうご仕事と生活センターは、これまで神戸にしか事務所がなく、この取組を推進する推進員も神戸にしかいませんでした。そのため、企業訪問をする際に、どうしても阪神間が中心になっており、西播磨地域まで手が伸びていない状況でした。</p>

<p>委員長</p>	<p>しかし、平成 30 年度からは姫路に事務所を新たに設置し、推進員も配置されていますので、これからは西播磨地域でも推進員が企業や商工会を訪問していくことが増えていくと思います。今後は、推進員とも連携しながら取組を進めてもらえればと思います。</p> <p>事務局からの説明をお聞きして、補助金の要件を緩和して申請件数が増えているなど、実態に合わせて取組を修正しながら進められていると感じました。</p> <p>指標につきましても、実態に合ったものは何かを考えていかなければいけないと思います。また、統計的な数値が出ていないものもあるかと思うので、その点は関係する部署等と情報共有して実態に合ったものが何かを検討していかなければいけないのではないかと思います。</p> <p>「宍粟わくわくステーション」を市役所内に開設されたということですが、相談件数や実際の就職に繋がった件数は分かりますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>相談件数につきまして、本年 6 月までは無料職業紹介所での数値となりまして、4 月が 34 人、5 月が 56 人、6 月が 62 人となっています。7 月からは「宍粟わくわくステーション」での数値で、7 月が 117 人、8 月が 136 人となっています。</p> <p>就職に繋がった件数につきましては、申し訳ありませんが数値までは確認できません。「宍粟わくわくステーション」となりまして、場所が市役所 1 階の位置に移動して分かりやすくなったこともあり、相談件数が倍近くになっていますので、就職に繋がった件数も増えてきている可能性があります。</p> <p>これからは、市外に出られている宍粟市出身者など市外の方にもアプローチできるように就職相談のための専用サイトの立ち上げも予定しています。</p> <p>また、都市部で行う市内企業の合同就職説明会などでも「宍粟わくわくステーション」を PR することで、市内での就職に繋げていきたいと考えています。</p>
<p>委員長</p>	<p>「宍粟わくわくステーション」を利用されている方の声や提供されている情報の量や質がどう変わったか分かりますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>運営事業者からは、企業が提示する条件と求職者の希望がマッチしないことがあるが、「宍粟わくわくステーション」の方が、その調整に入ることによって就職に繋がるケースがあると聞いています。利用者の声につきましては、1 階に掲示してありますが、まだ内容を把握できていません。</p>
<p>委員</p>	<p>今年度、私の働く会社に就職された方は、神戸で行われた就職相談会でうち</p>

事務局	<p>の会社を見つけられ、空き家バンクで家を見つけて移住してこられたということでした。今後、空き家バンクと仕事がリンクするような仕掛けを検討してもらえるといいのではないかと思います。</p> <p>また、30歳くらいになると親元を離れて一人暮らしをしようとする人が結構いますが、市内にあるアパートなどは家族向けの物件が多く、一人暮らしをするには家賃が高いため、市外で住居を探されています。前回の委員会で、森林大学校のシェアハウスの討論がありましたが、一般向けのシェアハウスなど市内に住みやすくなる取組を進めてもいいのではないかと思います。</p> <p>空き家と仕事をリンクさせていくのは、必要だと考えています。今は、空き家バンクの担当窓口と「宍粟わくわくステーション」は別の場所になっていますが、「宍粟わくわくステーション」でも空き家に関する簡単な相談は受けしており、今後はさらに連携を図った取組を進めたいと考えています。</p> <p>シェアハウスにつきましては、市内に空き家は増えていると思われませんが、貸していただけるかは所有者の事情もあり、簡単ではないと感じています。今後は、活用できる空き家をいかに有効活用して、それを提供するかが非常に大事だと思っています。実際に市外に転出された方など若い方へのアンケート調査でも、市内は姫路市などに比べると賃貸住宅の家賃が高いという意見があります。若い方は経済的余裕が少なく家賃などはできる限り抑えたいという思いもありますので、家賃の安い地域に転出してしまうということもあるのかと思います。</p> <p>空き家を有効活用していくことは必要であると考えていますので、寄付空き家などの活用も検討する中で、企業での活用も視野に進めていきたいと考えています。</p>
副委員長	<p>企業が市外から人を雇用しようと思うと、「住」に併せて「食」の提供も重要になってくると思います。実際、私の会社でも民間のアパートを活用して3人の従業員を住まわせていますが、食事は近くの飲食店に無理をお願いして提供していただいています。</p> <p>市内ではアパートの空き室も増えてきていますので、そういった空きアパートを1軒借り上げて、そこで食事も提供するといったことで受け入れ態勢を整備すれば、企業も市外から人材を確保し易くなると思います。</p> <p>このことは、行政が実施することではありませんが、1社の企業だけで取り組むことは難しいと思いますので、企業が連携して取り組める環境づくりを進めていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>単独の企業への支援というのは難しい面がありますが、若い方の定住に繋が</p>

副委員長	<p>るということで企業の連携した取組として進めていくことは必要かと思いません。</p> <p>アパートの空き室も散見されるということで、それらの空き室も空き家と同様に有効活用できていない資源として、ご意見を参考に検討していきたいと思えます。</p> <p>「宍粟わくわくステーション」について質問ですが、求人の情報はハローワークと連携されているのですか。</p>
事務局	<p>求人の情報については、ハローワークとも連携させていただきながら、運営事業者において企業開拓も行っています。</p>
副委員長	<p>こうやって資料を見せていただくと行政でも様々な取組をされていることは評価できると思えます。ただし、先ほどもありましたように従業員数が減ってきているというのは、私たちも感覚的に感じているところで、そこをどうやって増やしていくかという根本的な解決はできていない状況です。</p> <p>企業誘致、工場誘致は簡単なことではないと、私も経験上理解していますが、誘致を進めるにあたり重要となるのが用地だと考えています。</p> <p>周辺の市町や上郡町光都においても工業用地を準備して企業誘致を進めている中で、宍粟市においても企業誘致のための用地確保が必要であると思えます。また、誘致する企業によって必要な用地の条件は様々ですので、一か所でまとめて用地を確保するというよりは、分散して持つておくことが必要であると思えます。用地を確保して備えておくことで、企業から相談を受けたときに実際に誘致に繋がるかどうかが変わってくると思えます。</p> <p>また、夜の人口よりも昼間の人口を増やすことが、今抱えている課題を解決するために重要だと考えていますので、根本にある企業誘致、工場誘致というものを進めていただくようお願いします。</p>
委員長	<p>いくつか意見を出していただいたところですが、「総合的な仕事の相談窓口」とあるのは、「総合」という言葉から生活も含めた相談対応が必要になってくると思えますので、それをどのように整備してくのか考えていかなければならないと思えます。</p> <p>また、いくつか移住されたケースもあるということなので、その個別の成功例、また、失敗例について具体的に分析を進めていかなければいけないと思えます。それは他の事業でも言えることで、起業家支援の推進では創業者実数が平成29年度に8件まで増えており、その理由は支援制度の要件緩和とともに山崎の町屋再生によって、その周辺エリア全体の再生と相乗効果が生まれた結果</p>

	<p>ということでした。この点も何が上手くいっているのかと、今後の課題を具体的に明らかにしていくことが必要であると思います。</p> <p>やはり、ニーズがないところでいくら頑張っても無駄になりますので、何が求められているのかをさらに明らかにしていくことが必要であると思います。そして、その情報をこの戦略委員会のみで共有するのではなく、広く周知していくことが必要であると思います。</p> <p>では、時間も限られていますので次の議題に移りたいと思います。「若者による未来の地域づくりについて」ということで、事務局より説明をお願いします。</p> <p>(2) 若者による未来の地域づくりについて 【資料2-1】【資料2-2】について説明 ※参考 to 若者との意見交換会の様子を動画視聴</p>
事務局	
委員	<p>見せていただいた動画は、波賀町での話し合いの様子でしたが、今取り組まれているのは波賀町だけですか。</p>
事務局	<p>千種町の子育て世代の方とも同じように意見交換会を実施し、今月には波賀町の別のグループとも実施する予定です。また、山崎町においては商店街のグループに声かけをしているところです。</p>
委員	<p>一つのエリアに一つのグループということではないということですか。</p>
事務局	<p>将来的には、各町に若い方が集まれる場を作っていきたいと考えています。今はその前段として、コアメンバーになるような方と意見交換をしており、若者が集まる場を立ち上げるときは、その地域全体に声かけをしていきます。</p>
委員	<p>私の会社にも、最近若い移住者の方などが就職してくれています。今の動画を見ても、移住者などよそ者の方が、気が付くところは沢山あると思いますので、私の会社も含め、他企業の移住者との繋がりを作っていくのも効果がありそうだと思います。</p>
事務局	<p>今は、分かる範囲で若い方のグループに声をかけさせていただいていますが、グループを組まれていない方など把握できていない方も多くいらっしゃいますので、そういった方にも是非声かけをさせていただきたいと思います。</p>
委員	<p>思いや志しを持っている方を見つけて、そういった方をサポートしてあげることが、最も効果が高いのではないかと思います。</p>

事務局	<p>若い方の意見に隠れている、しなければいけないことがあるのではないかと いう思いです。当初は、急いで取り組んでいかなければならないと考えていま したが、それではいけないということでこういった手法をとっています。</p>
副委員長	<p>先ほど申しましたように、私どもは市内のアパートを借りて3人の従業員を 住まわせていますが、これは大工育成という部分で、職人になる子をこちらで 預かって強制的にやっています。</p> <p>しかし、他の新入社員に関しては入社後の住まいを宍粟市でないといけない ということにはしていません。そうしますと、入社後の住まいに宍粟市を選ぶ 新入社員はほとんどおらず、姫路市やたつの市に住まいを求めます。このこと については、若い方たちの中で田舎は刺激が少なく嫌だという共通した思いが あるというのが要因の一つなのかと思っています。</p> <p>それと、これは個人の資質によるところも大きいとは思いますが、奥さんが 市外から来られて、夫婦で市内に住んでいたけれども、夫が消防団や自治会行 事などの出事が多いことで家庭中心ではないということから、たつの市へ移住 してしまった事例があると聞いています。このことについては、先ほども言 いましたように個人の資質によるところが大きいので、これをどうしたらいいと いうことは言えませんが、都市部から来られる方にとっては田舎の風習が理解 できない部分もあるのかもしれない。</p>
委員	<p>私はたつの市に住んでいますが、たつの市においても様々な自治会の出事が ありますので、そういった自治会の出事に大きな違いはないのではないかと 思います。今言われたことは、住んでいる地域というよりは、その方がそれまで 両親が地域のためにどういうことをされていたかを知らないだけで、自分が家 族を持って初めて分かったことなのではないかと思っています。</p> <p>ただ、若い方の中で都市部の方が出事が少ないという意識はあるのかもしれ ません。</p>
副委員長	<p>私の住む地域でもアパートなどに入居されている方は、自治会の出事を免除 するような、自治会の側が気を遣うことがありますので、そういった部分も必 要なのかと思っています。</p>
委員	<p>私の住んでいる地域は、最近アパートなどが増えてきて、若い方が入って こられて新しい隣保もできています。そういった中で、若い方の中には、子育 てをしながら自治会の出事を頑張られている方もいますし、協力しようとしな い方もいます。それは、先ほど言われたように個人の資質によるところなのだ</p>

<p>委員</p>	<p>と思います。宍粟市でされている取組は、すぐに成果が出ないかもしれませんが、そういった地域のことを知ろうとするだけでも大きな意味があるのかと思います。</p> <p>私はNPO法人を運営していますが、宍粟市内でNPO法人を運営する若い方は少ないのですが、神戸などでは20代や30代の方が中心となって活動されており、地域づくりの核になっておられる状況があります。</p> <p>いきなりNPO法人というのはハードルが高いと思いますが、思いを形にできる楽しみや喜びを持てるものができればと思います。職を持ちながらも休日に活動されている方もいますので、そういったところで地域づくりに関わっていければ、無理なく進めていけるとと思います。思いを持っている方が地域を超えて繋がりを作っていけば、同じような思いを持った方が集まってきます。そして、NPO法人が一步進めば合同会社や株式会社のような生業にも繋がってくると思います。先の長いビジョンになりますが、そういった若い方を行政が主体となって誘導することも、これからの宍粟市には必要だと思います。</p> <p>神戸、芦屋、西宮などの地域では、若者を支援しながら自立していけるような仕組みが作られています。今後、宍粟市でもそういった取組をしていければ、若い方は地域づくりが自然と身につけながら、楽しみながら、また、行政のサポートを受けて安心しながら地域に残れるのではないかと思います。</p>
<p>副委員長</p>	<p>先ほどの事例などは地域の行事を権利ではなく義務で捉えられているのだと思います。確かに、捉え方は個人の資質によって千差万別で難しい部分はありますが、それを権利として捉えてもらえるような仕組みづくりが必要なのかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>例えば、たつの市で活動されている「NPO法人ひと・まち・あーと」などに講演してもらえれば、若い方の思いなどが前に出やすいのではないかと思います。また、行政で進められていることとマッチして、実現しやすくなるのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>議論されているような、若い方が宍粟市にいても自分たちのやりたいことが実現できるということは非常に大切だと思います。ただし、今出されている意見は、若い方の目線に立った意見となっていますが、そういった若い方の意見を受け入れる地域の懐の深さや行政の柔軟性というものが大切で、せっかく若い方が意見を出しても「前例がないからできない」や「規則でできない」ということがあれば、若い方が声を上げようとする芽を摘んでしまうことになると思います。</p>

	<p>私の会社も含めどこの企業でも、よく若い方の意見を聴こうとすることがあり、そういった仕組みを作ることはできますが、いざ若い方の意見を聴いてみるとやっぱりできないということになりがちです。</p> <p>今回の取組を進めるにあたっては、地域も懐を深く持たなければいけないし、行政も柔軟性をもってやっていかなければいけないのではないかと思います。</p>
委員	<p>言われるように、若い方と地域が敵対関係にならないような雰囲気づくりがどのようにできるか気になります。</p>
委員	<p>他の地域ですが、実際に若い方が地域づくりを進めていこうとするときに、自治会がその活動を抑え込もうとされた事例があります。確かに、できる限り摩擦が少ない方がいいと思います。ただ、一度は化学反応が起こらないと次に進まないとも思いますので、ぶつかり合ってもいいのではないかと思います。その結果、宍粟はそれが許してもらえる地域だと思ってもらえることに繋がるのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>後で説明もありますが、市では、本年度基金の積立てを行っています。基金を活用して、若い方がやりたいことをこの戦略委員会で諮りながら、後押しするという取組をしたいと思っています。</p> <p>これまでは生業に対する行政の支援というものはタブー視されていたものが変わってきて、様々な支援が出てきています。</p> <p>地域のしきたりも変えていかなければいけないという時代がもしかしたら来ているのかもしれないと感じており、そういった声が、若い方の中から生まれてきて、我々はその声を後押しすることが必要なのかと思います。</p>
委員	<p>確かに、若い方と地域がぶつかり合うことも必要なのかもと思います。ぶつかった方が分かり合えるかもしれません。</p>
委員	<p>ぶつかり合うことで弾けてしまうかもしれませんが、それでも何もしないよりはいいと思います。宍粟市の中で、若い方の意見を聴く場所があるというだけでも意味があるし、取組を高齢者と若い方が接点を持って進めていくことが出来ればいいと思います。</p>
委員	<p>若い方の意見を情報公開していくことが必要だと思います。そうすると、若い方の意見に賛同する人が増え、それが大きな力になっていくと思います。</p>
委員	<p>今日見せていただいた動画はしそチャンネルでも放送されているというこ</p>

委員長	<p>とですが、しそチャンネルは若い方はあまり見られていないので、若い方向けに別の媒体で情報発信することも必要ではないかと思います。</p> <p>どんどん発信することで広がっていくと思います。</p> <p>紙の報告書ではなくて、このように動画で記録を残していくことも重要だと思います。</p>
事務局	<p>この取組は今年始めたばかりなので、今後、続けていくと「私たちも話したい」というグループが沢山あるかもしれませんので、PRを続けていきたいと思っています。</p>
副委員長	<p>私の地域の祭りで、子どもたちに太鼓の音頭を取ってもらうことを15年前くらいからしています。統計的にカウントしたわけではありませんが、そのことで子どもたちに地域に対する愛着が生まれてきていると感じています。愛着が生まれるということは、地域へ定着する子どもも増えていくのではないかと思いますので、そういった部分で若者の育成というものにも取り組んでいただきたいと思っています。</p>
委員長	<p>この取組は、とにかくやってみるということが重要だと思います。先ほどルールづくりとありましたが、若い方たちの中でルールづくりをしていただいて、ルールに縛られた組織というよりはグループ同士を繋ぐ柔軟な組織として、私たちもその活動を見守っていくということで進めていければと思います。</p> <p>それでは、時間もありますので次の議題に移ります。事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(3) 人材確保・定住推進基金の活用について</p> <p>【資料3-1】【資料3-2】【資料3-3】について説明</p>
委員	<p>基金活用のスキームの中で、戦略委員会は重要な位置づけになっていますが、1回の戦略委員会をこの基金活用のためだけに開催されるのか、または、他の議題もある中で、基金活用について議論されるのか。</p>
事務局	<p>他の議題もある中で、基金活用についても議論していただければと考えています。</p>
委員	<p>説明をお聞きする中では、基金活用の事業についてはかなり議論をした上で判断が必要であると思います。そのため、提案される事業の数にもよりますが、</p>

委員	<p>基金活用のためだけに戦略委員会を開催する方がいいのではないかと思います。</p> <p>若い方たちの議論が熟成されないと事業提案されないとしますので、事業提案があるまでは相当期間が必要ではないかと思います。これは、市が直営で行う取組も戦略委員会に諮るものなのですか。</p>
事務局	<p>市が行う場合も戦略委員会で評価させていただきます。</p>
委員長	<p>市が行う場合は、通常予算を確保して行うこともできます。基金にも限りがありますので、市で行う事業に基金の多くを使ってしまうということがないように気を付けないといけないと思います。</p>
事務局	<p>もちろん市で行う場合は、通常予算措置で行うこともできますが、この戦略委員会で議論するという段階を踏むことは、非常に大切なことだと思っています。</p>
委員長	<p>ダブルスタンダードになることは、本来良くないことだと思いますが、市が行う場合と市民が行う場合で、同じ土俵で評価すると、どうしても差が出てくるのが想定されます。市民の方からの提案に対しては、しっかりと評価する中で、できる限り応援するというので、戦略委員会で諮る前の事前の準備をしっかりとやっていかなければいけないと思います。</p> <p>今年から始めた取組ということもあり、本年度に関しては少しイレギュラーな形での提案ということもあるかもしれませんが、来年度以降は計画的に提案の審査ができるように進めていただきたいと思います。</p> <p>この基金は、若い方が活用するというに限ったものではありませんが、先ほどの取組の中で、若い方からの提案も十分に考えられます。戦略委員会としては、その取組を応援するという姿勢を大切にしていきたいと思いますのでよろしくお願いします。</p> <p>次にその他として事務局よりありますか。</p>
事務局	<p>4 その他 特になし</p>
副委員長	<p>5 閉会 本日も熱心な議論をありがとうございました。今は「人口をどうにか確保し</p>

ていかなければならない」、「過疎をどうにかしていかなければいけない」ということを重要視しています。

そういった中で、商工会、西兵庫信用金庫、市役所が連携して行っているビジネスマッチングや就職説明会に高校生の参加をお願いして、実際に参加していただいていますと、平成30年度の就職希望者の中で、地元で就職を考えている子が増えてきているという嬉しい話を聞きました。こういった取組の積み重ねが、まちづくりや定住促進に繋がると思います。

今後も皆さんとともに議論を重ねていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。